

生命の森づくりを今年も！

私たち人類は地球上で生活をして、生き続けるために必要なものは様々ですが、永続的に生きるためには、森は不可欠です。人が危機を脱ぐために必要な森を山火事被害を受けた土地で再生するために「生命の森づくりプロジェクト」を始めました。1998～99年にインドネシア東カリマンタン州で発生した大森林火災で570万ヘクタールという広大な森林が喪失しました。その鎮火直後の現場で考えたことは、「このまま何もしないでは次世代の子供たちを厳しい環境に置くことになる、何か自分にできることを実行したい」と考え、2001年から植林に取り組んでいます。しかし、小さな団体で取り組むには大きな課題の前では、非力であることを自覚し、考え続けて編み出したのが「ツーインワン」という仕組みです。「ツーインワン」とは「あらゆる生命の源」としての「熱帯雨林の修復のための木」(エコロジー＝樹下植林)と人類の「社会経済活動の持続性のための木」(エコノミー＝経済林の造成の為にチークを植林)の2本をセットで実行する「生命の森づくり」プロジェクトを立ち上げ2003年から実行中です。**2003年～2023年の実績は※「チーク+メランティ」各18,944本、合計37,888本になりました。**この植林で修復できた森林の面積**58.42ha = 東京ドーム約13.9個分**となりました。大きな山火事発生のもととはたとえば、人間の経済活動による無計画な伐採の結果、森林環境が壊れ、乾燥に弱いエリアになり、たびたび、火事を招く結果になっています。人間が持続的に地球上で生き続けるためには、「自然と調和し自然と共に生きるため」は、植林による熱帯雨林の保護と再生が不可欠です。「森のない地球に人類の未来はない」という真理に基づいてこのプロジェクトを立ち上げ活動しています。

この活動を継続的に支援していただいている(株)城山、ジュンセイ(株) (株)トラスキー、個人では継続会員の皆様のご支援により、毎年植林を続けさせていただいています。

今年は、初めてこれまでチークだけを植林してきた土地に、より多様性のある森づくりの一環として、この土地本来の樹種であるメランティ（フタバガキ科の植物）を樹下植林します。メランティは陰樹ですので、チークの樹木の下で育ちより多様性豊かな森を形成してくれることを期待しています。



植林用のメランティの苗を育苗中



ジャワの林業公社から組織培養苗を購入し植林用チークの苗を育苗中